

町んなのよりどころ

「職、趣味、特技を活かし、自分の力で地域との交流を広げていける環境」を提供する施設を計画した。
障がい者の「やりたい！」ことが最大限に可能としながら、それを介して地域に自己を発信できる場となる。



1 背景：商店街と障がい者を取り巻く環境の現状



商店街は高度経済成長期に多く建てられたが、現在は大型商業施設に客を取られシャッター街になり、高齢者普通に働きたい、普通に暮らしたいと考える人は多い化に伴う働き手不足により閉店する場合もある。本計画が、障がい者の社会進出と一人暮らしはハードルが高両のさつきが丘名店街もシャッター街となっている。い現状にある。

2 提案： 支えあい・助け合う街づくり



3 敷地： 千葉市花見川区さつきが丘名店街



4 商店街とのつながり方 はじめてのひとり暮らしから商店街に溶け込み生活するまでの6ステップ

- ① 初めての一人暮らし
慣れない土地で一人暮らしは不安がいっぱい。「マイルーム」の可動間仕切りを閉じてプライベート空間とし、地域との距離感を自分で選択できる。
- ② 徐々に環境に慣れてきたらお仕事開始
1階のカフェ・パン屋・洗濯代行が就業の場となる。地域と繋がりが、働く力を身に付ける。
- ③ 仕事の息抜きや休日
アートギャラリー・アトリエ、みんなのリビングで地域住民や隣人とともに交流を図る。アートを通して様々な人々と繋がる。
- ④ 地域に慣れてきたら
「マイルーム」を少しずつ開放していき、自分の趣味や特技、好きなもので隣人や地域住民と交流を広げていく。
- ⑤ 1階で働いて身につけたことを活かす
もっと自律したいと希望する人は商店街で提携している店舗に働きに行ける。商店街の一員として商店街を盛り上げていく。
- ⑥ 地域にすっかり慣れる
商店街の人みんなと顔見知りになり。施設職員や商店街の人達の力を借りながら「マイルーム」を全開放し、自分でお店を出してみることにチャレンジ。

1階は障がい者の就業継続支援と地域交流空間。

施設内全体を開口を大きく、ガラスでオープンな空間とすることで地域住民が入りやすい雰囲気を作り出す。



2階はサテライト住居。

1Kに加えて自由に自己を表現し、まちの人々に発信できる「マイルーム」で一住戸を構成。「マイルーム」は可動間仕切りの開き方で公私の空間を自由に使い分けられることができる。自分の好きな距離感で地域とつながることができる。



自分の趣味を発信し、交流と商売を体験する



商店街の一員として働き、商店街に貢献する



アートギャラリーを通じた自己表現と多世代交流をする



商店街で買い物をした主婦や子供が休憩する